

美作市 学校施設の長寿命化計画



令和 2年 12月

美作市教育委員会

(1) 学校施設の長寿命化計画の背景・目的等

①・② 背景と目的

美作市は平成17年3月に周辺6町村が合併、誕生して現在に至っています。学校施設においては旧町村単位で各々整備され、且つ昭和40年代をピークにその後は人口減少に伴う児童生徒数の減少に合わせて統廃合が繰り返されています。統廃合や施設の経年に伴い昭和40年代～平成2年までの築30年以上経過した老朽化施設が41棟(3.9万㎡)、全体の57%を占めています。近年においても一部の中心部エリアを除いて過疎化が収まらず、人口減少・少子高齢化・児童生徒数の減少が予想され大きな課題となっております。

前述の期間に整備された学校等の老朽化施設については今後、大規模改修や建て替えに多額の費用が必要となると考えられており、これらの適正な維持管理も含め、他自治体と同様に課題となっております。

本計画は、上記の背景を踏まえて学校施設を総合的観点で捉え、長寿命化し、適正に改修・建て替えするとともに、教育環境の質的改善も考慮しながら改修・建て替え等を検討するための詳細診断の優先順位を設定しつつ、これに要するコストの縮減と平準化を図ることを目的として策定します。

なお、本計画は美作市公共施設等総合管理計画に基づく学校施設の個別施設計画として位置づけるとともに、施設整備計画は本計画に基づき策定していくこととします。

③ 計画期間

令和 3 年～令和 42 年 (5 年ごとを目処に見直し)

令和3年度から令和42年度までの40年間を計画期間とします。
実施・実行については、施設の老朽化状況等の実態を継続的に把握し、PDCAサイクルによる実行システムを構築します。

健全度点数、築年数並びに安全性等を考慮し、今後の整備計画を組立てていきます。

直近5年の計画につきましては、後述の様式6-1を参照ください。

本計画については5年ごとを目処に見直します。

④ 対象施設

学校	
小学校	9校
中学校	5校
幼稚園・認定こども園	5園
給食センター	
給食センター	3施設
保育園	
保育園	4園

※計画策定時において、大原・大吉保育園並びにむさしこども園は計画に組み込まれておりません。

(2) 学校施設の目指すべき姿

(学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議 平成25年3月)より抜粋

1. 安全性

- 災害対策
 - ・地震、津波、洪水に強い学校施設。 ・防災機能を備えた学校施設。
- 防犯・事故対策
 - ・安全で安心な学校施設。

2. 快適性

- 快適な学習環境
 - ・学習能率の向上に資する快適な学習環境。
 - ・児童生徒の学校への愛着や思い出につながり、また地域の人々が誇りや愛着を持つことができる学校。
 - ・バリアフリーに配慮した環境。
 - ・子どもたちや保護者等が教員を訪れやすい空間。
- 教職員に配慮した環境
 - ・教職員に配慮した空間スペース。
 - ・教職員の事務負担軽減などの為の校務の情報化に必要なICT環境。

3. 学習活動への適応性

- 主体性を養う空間の充実
 - ・子どもたちの自発的な学習や読書活動を促すための環境。
 - ・子どもたちの教科等に対する興味関心を引き、自ら学ぶ主体的な行動を促すための空間。
 - ・子どもたちや保護者等が教員を訪れやすい空間。 ・社会性を身につける為の空間。
- 効果的・効率的な施設準備
 - ・習熟度別指導や少人数指導などの、きめ細かい個に応じた指導を行うための空間。
 - ・調べ学習や習熟度別学習、チームティーチングなどの多様な学習集団・学習形態を展開するための空間。
 - ・各教科等の授業の中での調べ学習や協働学習、観察・実験のまとめや児童生徒の成果発表などに活用して学習効果を高める為のICT環境。
 - ・各教科等の授業を充実させるための環境。
- 言語活動の充実
 - ・各教科等における発表・討論などの教育活動を行うための空間。
 - ・子どもたちの自発的な学習や読書活動を促すための環境。
 - ・各教科等の授業の中での調べ学習や協働学習、観察・実験のまとめや児童生徒の成果発表などに活用して学習効果を高める為のICT環境。
- 理数教育の充実
 - ・充実した観察・実験を行うための環境。
- 体育教育の充実
 - ・充実した運動が出来る環境。
- 伝統や文化に関する教育の充実
 - ・伝統や文化に関する教育を行うための環境。
- 外国語教育の充実
 - ・外国語活動等におけるジェスチャーゲームなどの体を動かす活動や、ペアやグループでの活動など、児童生徒が積極的にコミュニケーションを図ることができるような空間。
- 学校図書館の活用
 - ・子どもたちの自発的な学習や読書活動を促すための環境。
 - ・調べ学習や習熟度別学習、チームティーチングなどの多様な学習集団・学習形態を展開するための空間。
 - ・各教科等の授業の中での調べ学習や協働学習、観察・実験のまとめや児童生徒の成果発表などに活用して学習効果を高める為のICT環境。
 - ・地域に開かれた学校とするための環境。 ・地域の生涯活動の拠点となる学校施設。
- キャリア教育・進路指導の充実
 - ・充実したキャリア教育・進路指導を行うための環境。
- 食育の充実
 - ・食育のための空間。
- 特別支援教育の推進
 - ・バリアフリーに配慮した環境。 ・自閉症、情緒障害又はADHD等の有る児童生徒に配慮した学校施設。
- 環境教育の充実
 - ・地球環境問題への関心を高めるためのエコスクール。

4. 環境への適応性

- ・環境を考慮した学校施設(エコスクール)。

5. 地域の拠点化

- ・安全で安心な学校施設。 ・バリアフリーに配慮した環境。
- ・地域に開かれた学校とするための環境。 ・地域の生涯学習の拠点となる学校施設。

(3) 学校施設の実態

① 学校施設の運営状況・活用状況等の実態

1) 対象施設一覧

	名 称	住 所	児童生徒数(人)		学級数(学級)		
			通常学級 在籍者数	特別支援	通常学級	特別支援	
小 学 校	1	勝田小学校	美作市真加部1366	76	8	6	2
	2	勝田東小学校	美作市大町64	23	0	3	0
	3	大原小学校	美作市下町326-2	143	14	6	2
	4	東粟倉小学校	美作市東青野395	31	0	4	0
	5	美作北小学校	美作市櫛原中60	291	30	11	5
	6	美作第一小学校	美作市湯郷58	190	22	6	3
	7	江見小学校	美作市江見573	124	11	6	2
	8	土居小学校	美作市土居203	46	4	6	2
	9	英田小学校	美作市福本935	73	15	6	2
	10						
小学校 計				997	104	54	18
中 学 校	1	勝田中学校	美作市真加部1575	46	1	3	1
	2	大原中学校	美作市下町350	112	7	5	2
	3	美作中学校	美作市三倉田205	258	23	9	4
	4	作東中学校	美作市江見226-2	118	13	4	2
	5	英田中学校	美作市福本730	49	4	3	1
	6						
中学校 計				583	48	24	10
小・中学校 合計				1580	152	78	28
幼 稚 園 ・ 認 定 こ ど も 園				幼児数(人)		教室・保育室数(室)	
	1	東粟倉幼稚園	美作市東青野420-1	令和2年度から休園中			
	2	美作北幼稚園	美作市櫛原中277-1	17	4~5歳児	2	
	3	土居幼稚園	美作市土居174	13	3~5歳児	2	
	4	英田幼稚園	美作市福本708-1	6	4~5歳児	2	
	5	湯郷こども園	美作市湯郷67-1	184	0~5歳児	11	
幼稚園・認定こども園 計				220		17	
保 育 園	1	勝田ひまわり園	美作市真加部20-3	69	0~5歳児	5	
	2	美作北保育園	美作市櫛原中277-1	213	0~5歳児	8	
	3	江見保育園	美作市藤生19-1	88	0~5歳児	6	
	4	英田保育園	美作市福本640-1	42	1~5歳児	3	
保育園 計				412		22	
給 食 セ ン タ ー				対応学校		給食作成数(概算人)	
	1	美作給食センター	美作市三倉田210	勝田小・勝田東小・美作北小・美作第一小・ 英田小・勝田中・美作中・英田中		1200	
	2	作東給食センター	美作市江見226-1	江見小・土居小・土居幼 作東中		390	
	3	英北給食センター	美作市下町494-6	大原小・東粟倉小 大原中		360	
給食センター 計						1950	

2) 児童生徒数及び学級数の変化

<児童生徒数>

(人)

	これまでの推移										将来推計			
	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2010	2015	2020	2025	2030	2035	2040	
	昭55	昭60	平2	平7	平12	平17	平22	平27	令2	令7	令12	令17	令22	
小学校児童数							1425	1324	1101	1000	920	850	800	
中学校生徒数							754	718	631	550	500	470	450	
合計							2179	2042	1732	1550	1420	1320	1250	

<学級数>

(学級) 特別支援学級数は含まず。

	これまでの推移										将来推計			
	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2010	2015	2020	2025	2030	2035	2040	
	昭55	昭60	平2	平7	平12	平17	平22	平27	令2	令7	令12	令17	令22	
小学校							70	63	54	49	45	42	40	
中学校							27	27	24	22	20	18	18	
合計							97	90	78	71	65	60	58	

※平成21年度以前については、関係資料廃棄済で調査不能に付き未記入。
 ※将来推計については過去10年間の推移から予測。

【小学校】

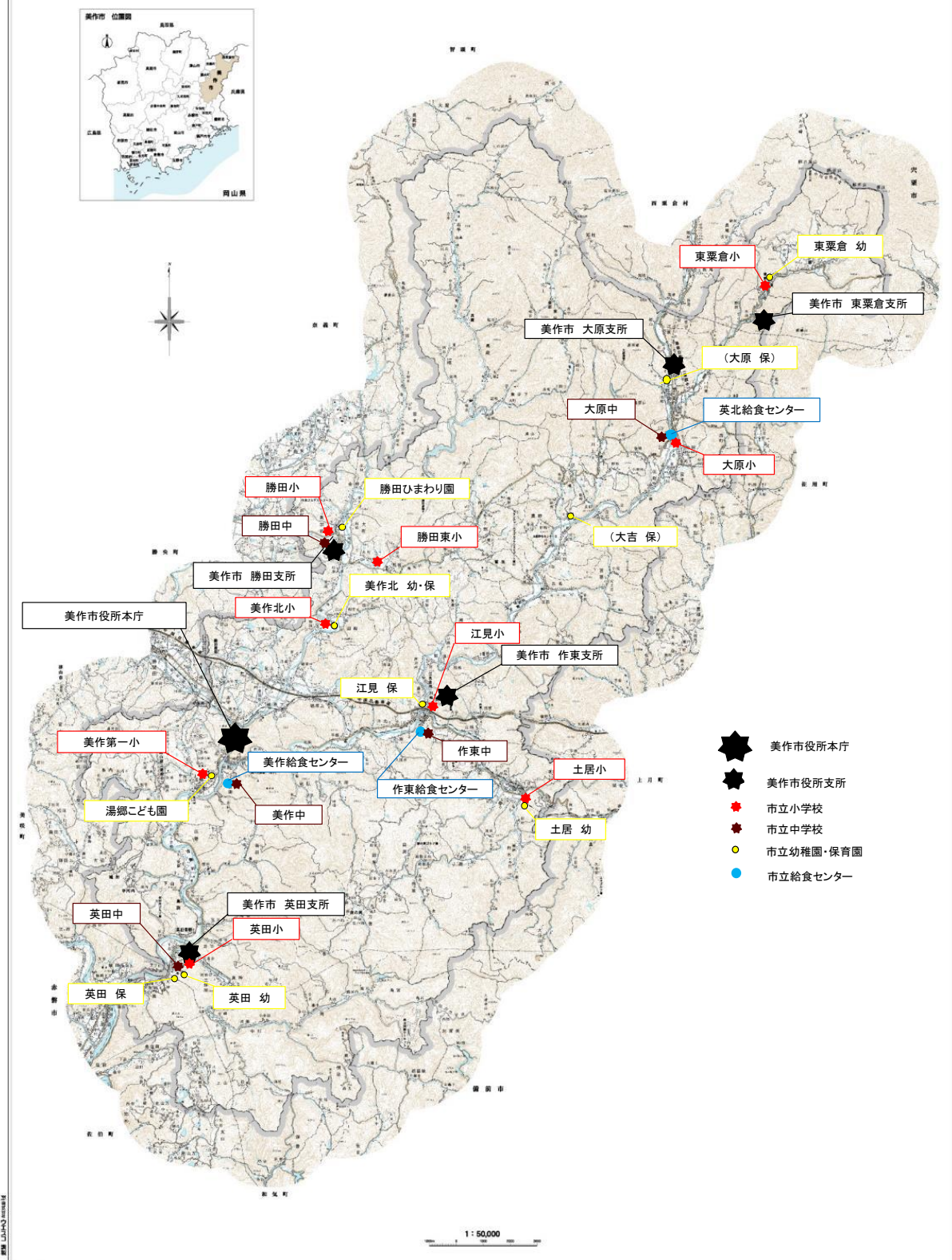
市立小学校の児童数は、令和2年5月1日現在1101人(54学級)です。昭和40年代のピーク時の20～30%と推定されます。

【中学校】

市立中学校の生徒数は、令和2年5月1日現在631人(24学級)です。小学校同様に昭和40年代のピーク時の20～30%と推定されます。

3) 学校施設の配置状況

美作市全図



4) 施設関連経費の推移

(千円)

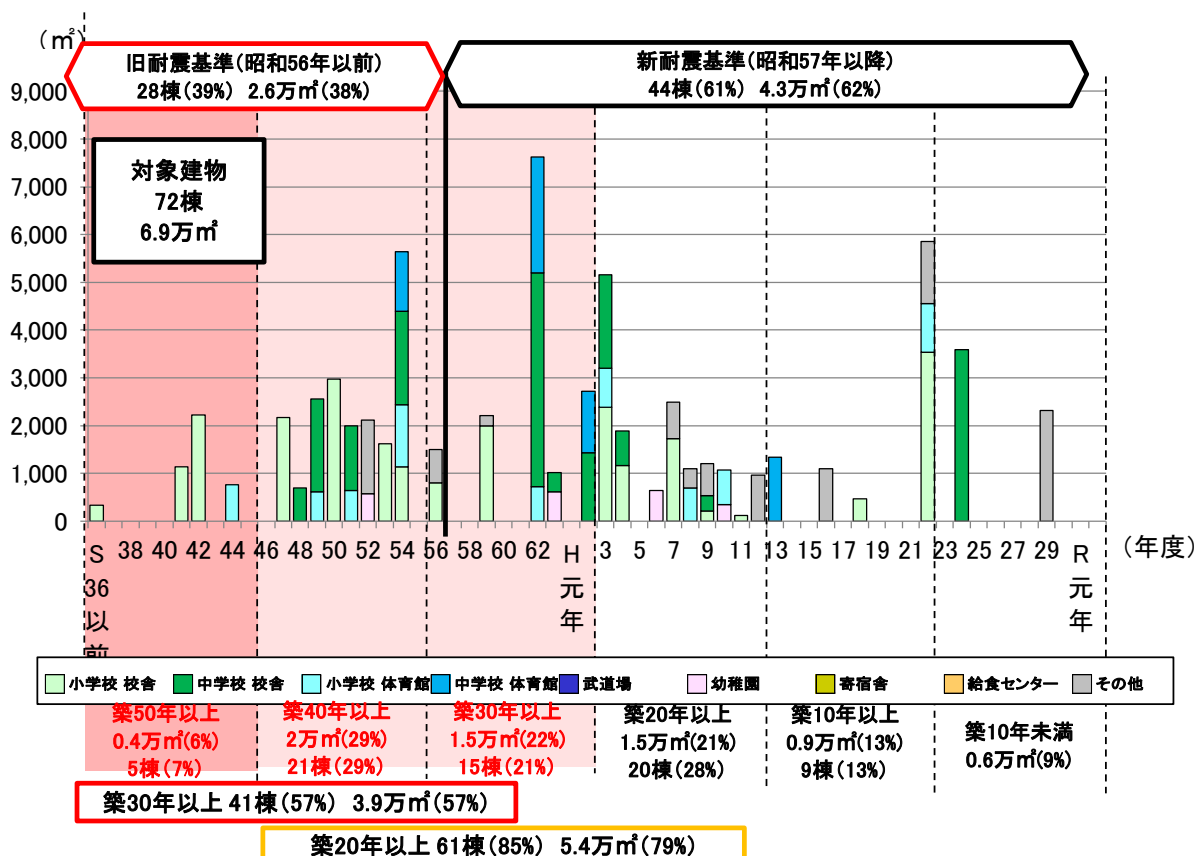
	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	平成 31年度	5年平均
施設整備費	27,762	85,382	711,736	61,458	128,984	203,065
その他施設整備費	146	0	0	222	0	74
維持修繕費	12,991	7,477	26,035	21,573	10,379	15,691
光熱水費・委託費等	83,018	123,987	81,018	81,598	83,832	90,690
施設関連経費合計	123,917	216,846	818,789	164,851	223,196	309,520

- ※1 平成29年度は湯郷こども園建設費(約6.5億円)を含む。
- ※2 大原・大吉保育園分は未算入としている。
- ※3 光熱水費はH30年度をベースに各年同額としている。

平成27～31年度の5年間の学校教育施設の施設関連経費は、約1.2億～約8.2億で、**5年間の平均は約3.1億円/年**となっています。平成29年度は湯郷こども園建設費を算入の為、金額が突出しています。これを除く場合、約1.2億～約2.2億で、5年間の平均は約1.8億円/年となります。

5) 学校施設の保有量

築年別整備状況

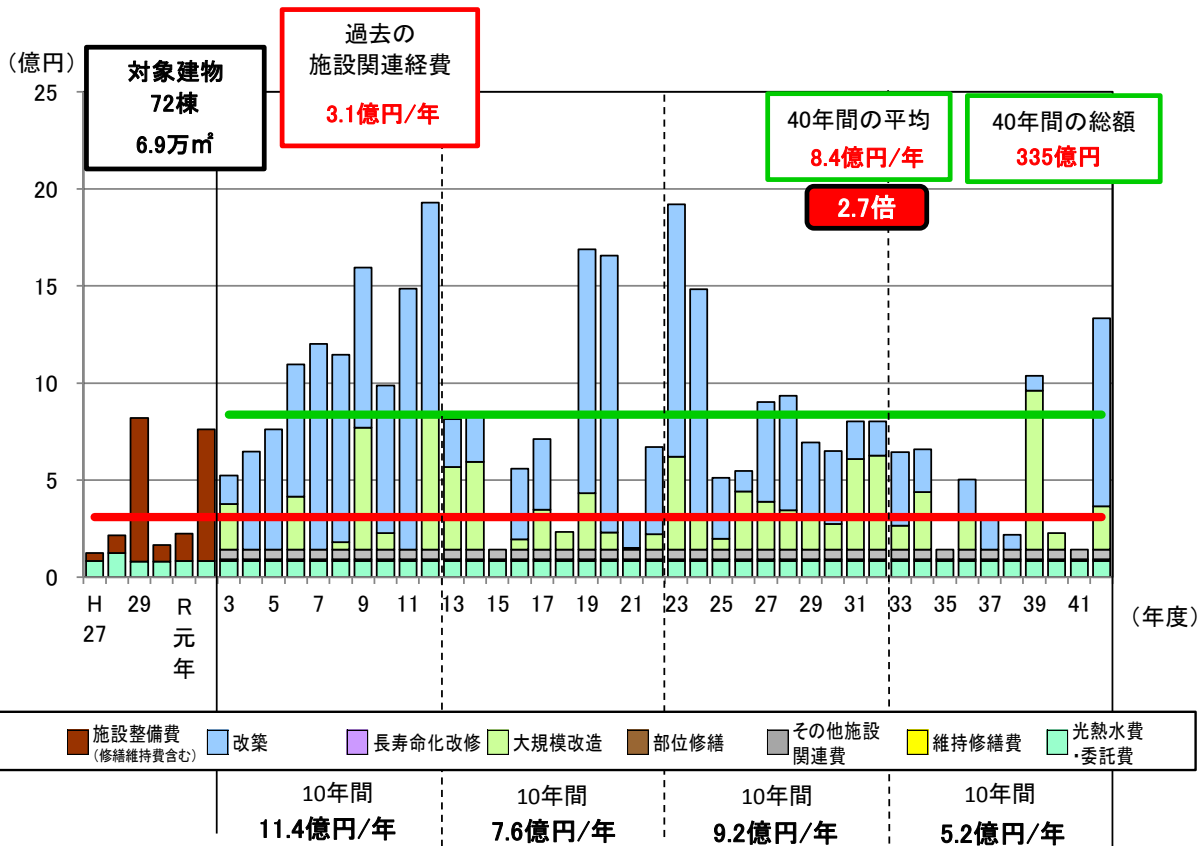


築40年以上の施設が21棟約2万㎡存在、既に改築時期を迎えています。
更に築30年以上40年未満の施設を加えると36棟約3.5万㎡となります。

この先10年間に施設の半数が改築時期を迎えます。

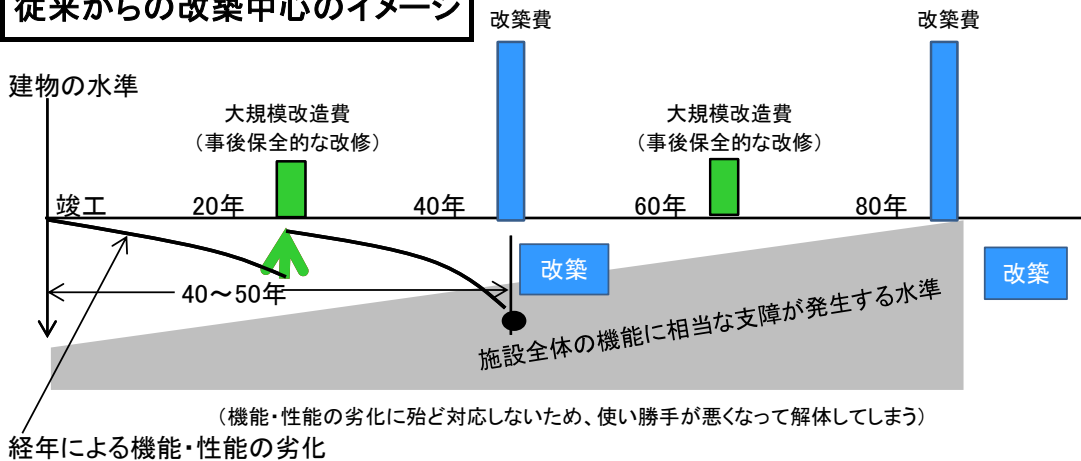
6) 今後の維持・更新コスト (従来型)

今後の維持・更新コスト(従来型)



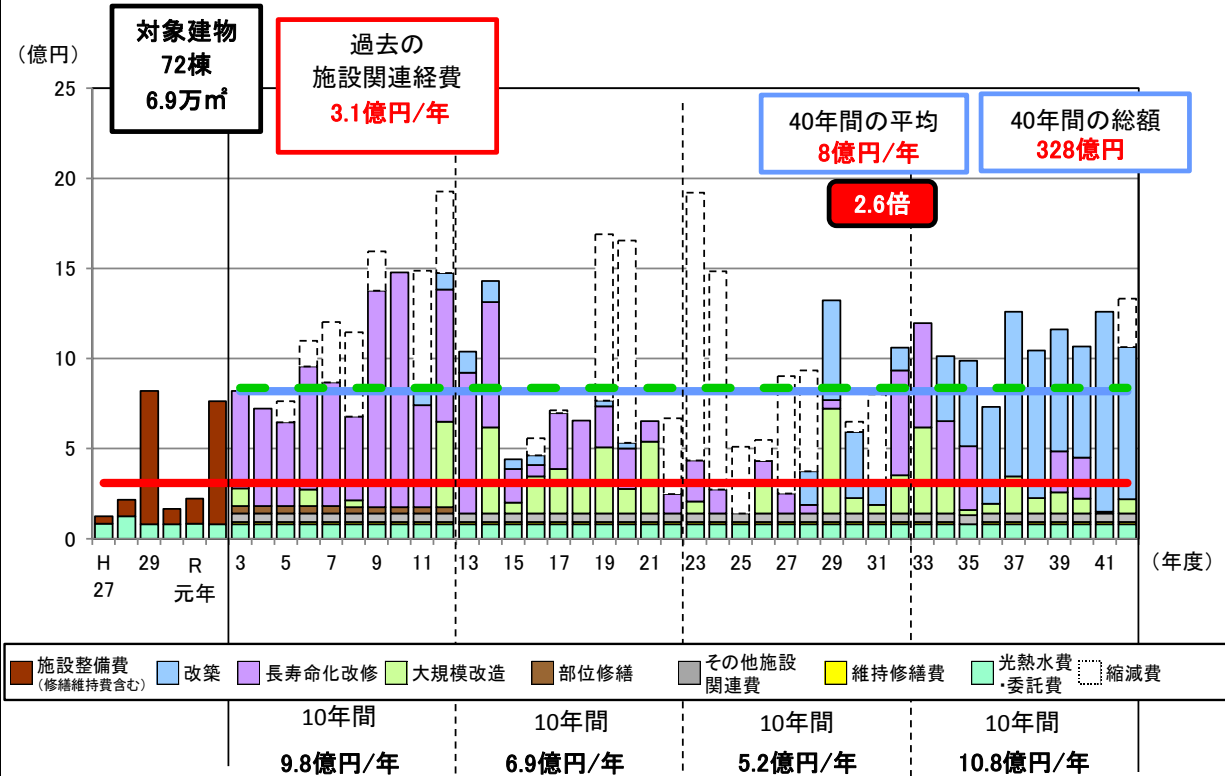
従来の維持・更新手法では当面の10年間に改築施設が集中しており、相応してこの期間に係る費用も膨大になってきます。(最大19億円/年 平均11.4億円/年)

従来からの改築中心のイメージ



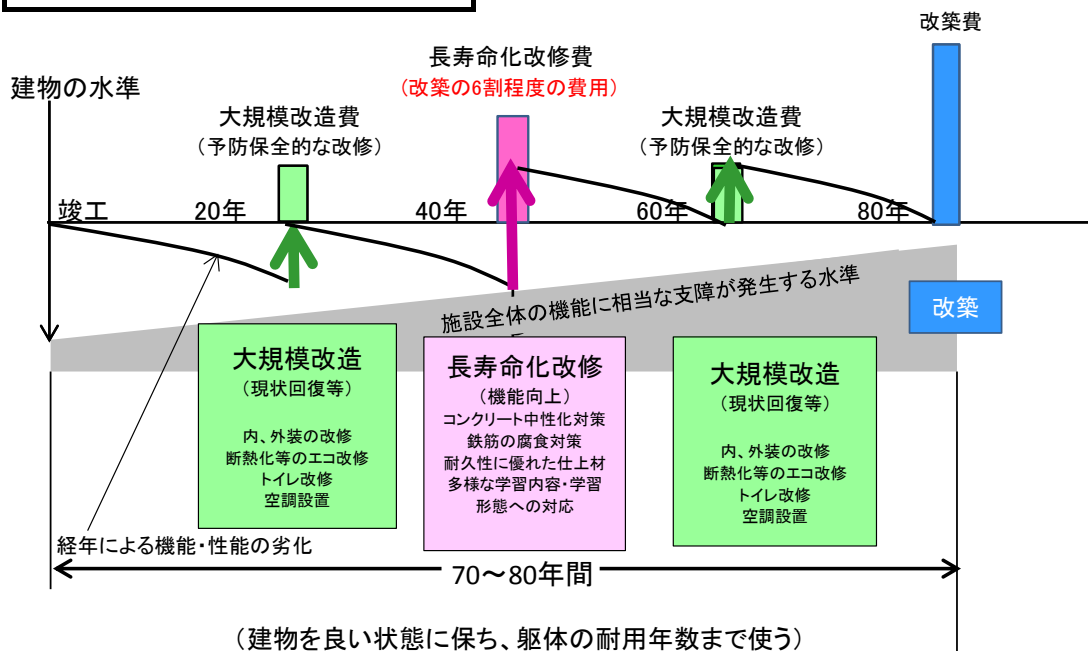
2) 今後の維持・更新コストの把握 (長寿命化型)

今後の維持・更新コスト(長寿命化型)



長寿命化改修を取り入れた維持・更新手法により、施設の長寿命化、係る費用の平準化、総費用の縮減を図ることができる。

長寿命化のイメージ



(4) 学校施設整備の基本的な方針等

① 学校施設の規模・配置計画等の方針

1) 学校施設の長寿命化計画の基本方針

公共施設等総合管理計画の基本方針

- ①計画的保全による長寿命化の推進
 継続使用施設における「予防保全」の考えを取り入れた、定期点検・診断に基づく計画的保全を実施し、施設の長寿命化を推進する。
- ②施設保有量の最適化
 今後の財政状況や人口特性等に見合った適切な施設保有量の検討を行う。施設の多機能化や集約化等を検討する「機能重視」に発想転換し、保有量の最適化を図る。
- ③市民ニーズに対応した施設の有効活用
 人口構造・社会情勢の変化、防災対策・バリアフリー化・環境配慮等市民ニーズの多様化に対応する為、施設機能の必要性や今後の在り方について分析・検討し、施設の有効活用を図る。
- ④街づくりと連動したマネジメントの推進
 将来目指すまちづくりを見据え、地域・施設の特徴を考慮しマネジメントを推進。また国・県・近隣市町村と相互連携を図り、広域的視点でまちづくりに取り組む。

公共施設等総合管理計画の施設類型別方針
 【学校】【幼稚園】【保育園】

施設の長寿命化を図り、体育施設の地域開放を進め、余裕教室の複合化を検討する等、有効活用を図る。

よりよい教育環境整備のため、地域実情に応じた適正な施設配置を進め、施設の更新や大規模改修時には、適切な施設規模や仕様を検討します。

幼稚園・保育園についても利用者ニーズや建物状況を勘案し、施設の集約化や他の公共施設への転用について検討。あわせて幼保連携型認定こども園の設置についても検討。また周辺の公共施設更新時に複合化も検討します。



学校施設の長寿命化計画の基本方針

小中学校の規模の適正化と適正配置の推進。

大規模改修、改築時には、小規模校や将来児童生徒数が減少する学校は、周辺の公民館、子どもルーム、老人施設、地域体育館、プール・グラウンド等の機能を集約・複合化し、地域のコミュニティと防災の拠点化を図る。

幼稚園・保育園についても、子育て支援制度のもと学校同様適正配置等を総合的に検討します。

2) 学校施設の規模・配置計画等の方針

学校施設の活用方針・適正配置の方策

1) 現状の規模や機能を維持する学校・園・施設

在籍人数の多い学校や園、或は地域の特別な事情、並びに施設の老朽化等を考慮し、候補施設を検討していくこととする。

- 教育方法や内容等の変化に適応させる
- 余裕教室等の空きスペースの有効活用
- 保有施設の内、不用となった部分の「減築」

2) 現状の機能や規模を維持しつつ、他の公共施設との複合化・共用化を検討する学校・園・施設

在籍人数が中規模の学校や園、将来の人口予測、或いは地域の特別な事情や公共公益施設の設置状況、並びに施設の老朽化等を考慮し、候補施設を検討していくこととする。

- 学校施設の地域内核化
- 地域実情に応じて、文教施設や高齢者福祉施設等の公共公益施設との複合化・共用化

3) 統廃合を検討する学校・園・施設

在籍人数が小規模の学校や園、将来の人口予測、或いは地域の特別な事情や公共公益施設の設置状況、並びに施設の老朽化等を考慮し、将来的な統合や施設の転用等を計画していくこととする。

- 4) 美作市においては現時点で個々の施設に係る方針が立てられていないため、方針策定に向けた具体的検討を今後3年間を目処に、地域住民や関係部局を交えて行うこととする。

② 改修等の基本的な方針

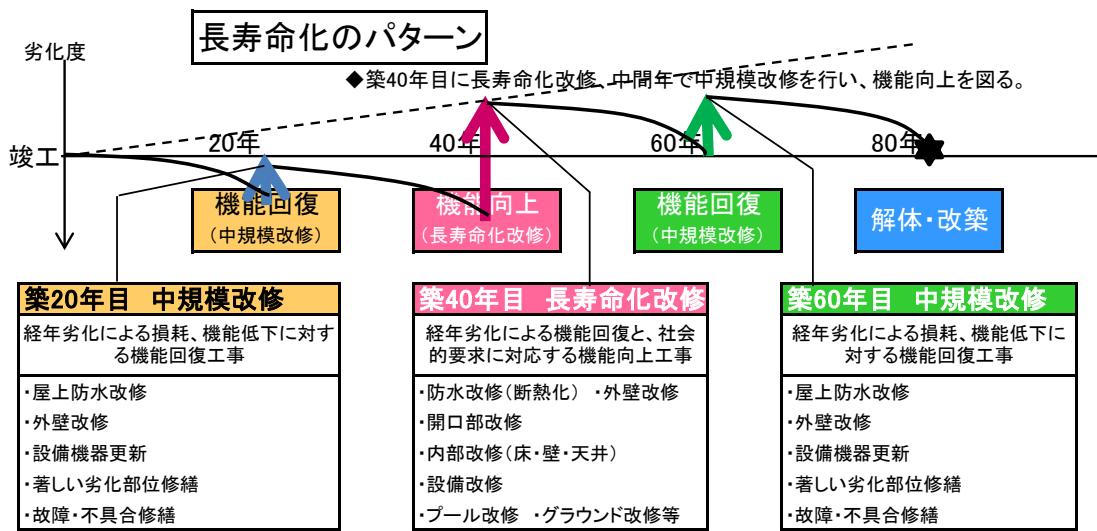
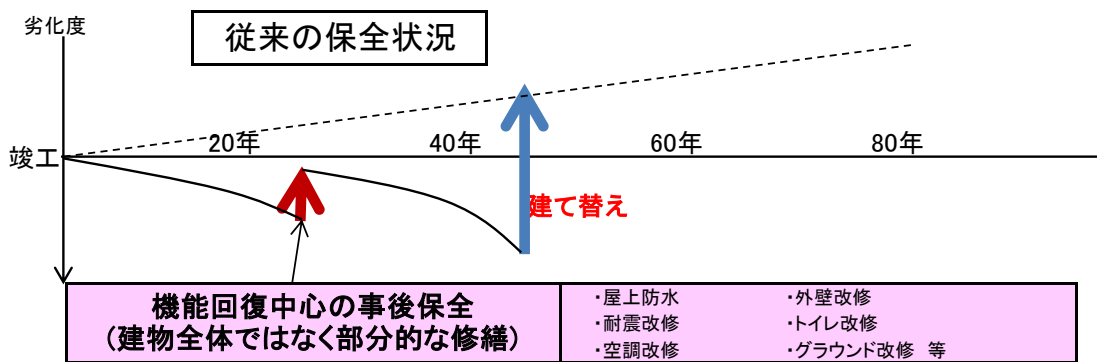
1) 長寿命化の方針

中長期的な維持管理等に係るトータルコストの縮減・予算の平準化を実現させるため、以下に示すような建物を除き、**改築より工事費が安価で工期が短く、廃棄物や二酸化炭素の排出量が少ない長寿命化改修**への転換を図るものである。

- ・鉄筋コンクリートの劣化が激しく、多額の改修費用がかかり改築の方が安価となる建物。
- ・コンクリート強度が著しく低い建物(概ね13.5N/mm²以下)。
- ・基礎の多くの部分で鉄筋が腐食している建物。
- ・校地環境の安全性が欠如している建物。
- ・建物配置に問題が有り、改修によっては適切な教育環境を確保できない建物。
- ・学校の適正配置など地域の実情により改築せざるを得ない建物。

なお改築せざるを得ない建物が有った場合には、それまでの期間に応急的な保全を行う等、当面の安全性・機能性等を確保することとする。

今後は、建て替えから長寿命化改修による建物の長寿命化に切り替え、**部位修繕を併用した整備を行うこととする。以下に長寿命化改修を実施した場合の修繕・改修周期を示す。**



築20年目 中規模改修
経年劣化による損耗、機能低下に対する機能回復工事
・屋上防水改修 ・外壁改修 ・設備機器更新 ・著しい劣化部位修繕 ・故障・不具合修繕

築40年目 長寿命化改修
経年劣化による機能回復と、社会的要求に対応する機能向上工事
・防水改修(断熱化) ・外壁改修 ・開口部改修 ・内部改修(床・壁・天井) ・設備改修 ・プール改修 ・グラウンド改修等

築60年目 中規模改修
経年劣化による損耗、機能低下に対する機能回復工事
・屋上防水改修 ・外壁改修 ・設備機器更新 ・著しい劣化部位修繕 ・故障・不具合修繕

2) 目標使用年数、改修周期の設定

	目標使用年数	大規模改造の周期	長寿命化改修の周期
校舎	80年	築 20年／60年	築 40年
体育館	80年	築 20年／60年	築 40年

(5) 基本的な方針等を踏まえた施設整備の水準等

① 改修等の整備水準

構造体の長寿命化やライフラインの更新等により建物の耐久性を高めるとともに、省エネ化や多様な学習形態による活動が可能となる環境の提供など、現代の社会的要求に応じるための改修について下表により仕様を設定します。

		省エネ型	長寿命化改修	現状の整備水準
部位		改修メニュー(整備水準)		
		(高)		(低)
外部仕上	屋根 屋上	外断熱保護防水(断熱材50mm) 鋼板葺き替え(GI鋼板・断熱工法) (既存撤去)	塩ビシート防水(断熱材25mm) 鋼板葺き(遮熱塗装上塗り) 鋼板上葺き(GI鋼板) (既存の上)	シート防水 塗膜防水 鋼板葺き(塗装上塗り) (断熱無し)
	外壁	外断熱	外壁塗装 (防水型複層塗材) 内断熱	外壁塗装 (複層薄塗材) 断熱無し
	外部 開口部	アルミサッシ交換 (カバー工法・取替え等) (複層ガラス等)	既設サッシのガラス交換 (複層ガラス等)	
	その他 外部	日射抑制措置(ライトシェルフ庇)	庇等の設置無し	手摺り等の鉄部塗装
内部仕上	内部仕上 (教室等)	内装の全面撤去・更新 (木質化)	床補修 壁・天井塗り替え	既存のまま
	便所	内装の全面撤去・更新 節水型便器に交換	床補修 壁・天井塗り替え 洋風便器に交換(洋風化率向上)	既存のまま
設備 配管・ 配線・ 機器	給排水 配管 受水槽	配管の全面更新(耐震化・露出仕様) 受水設備更新	配管の 部分更新	既存のまま
	電気・弱電 通信等 配線	各種配線の全面更新(露出) 受電設備更新	各種配線の部分更新 キュービクル更新	既存のまま
	照明器具	照明器具の 全面更新	照明器具の部分更新	既存のまま
	空調機器	高効率空調機に更新	未設置教室への設置	既存のまま

長寿命化改修に向けた、社会的要求水準の高まりを考慮した検討ポイント。

学習環境	多様な学習の場	ICT教育	
生活環境	トイレのドライ化	木質化	
省エネ化	太陽光発電	LED照明	高気密・高断熱
バリアフリー	エレベーター	多目的トイレ	点字ブロック
防災・防犯	自家発電	防犯監視	マンホールトイレ カマドベンチ

② 維持管理の項目・手法等

点検チェックリストの凡例を示します

5 年ごとに点検を実施

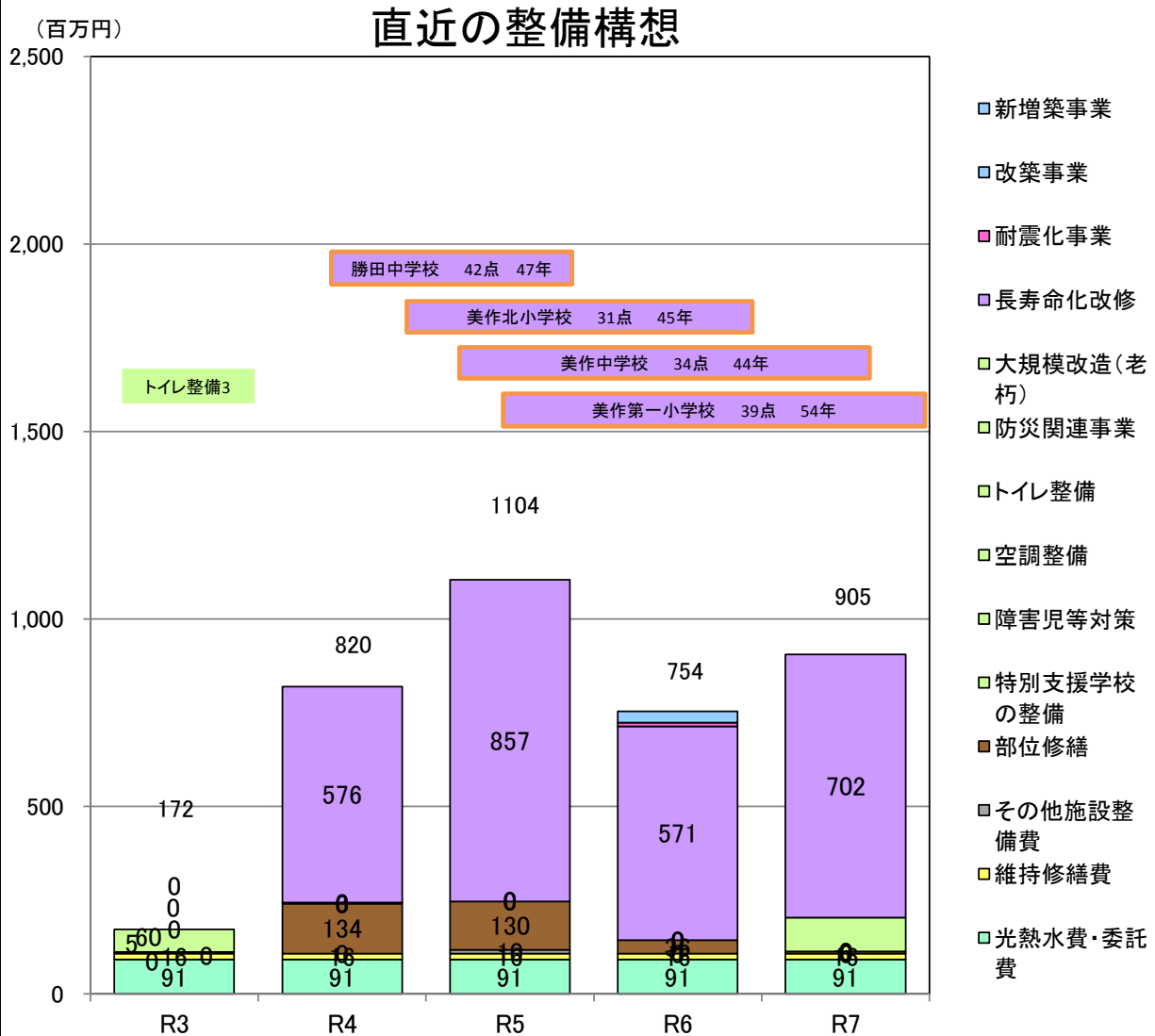
通し番号	XXXX-XX-X		
学校名	A学校	学校番号	1301
建物名	校舎	調査日	平成28年9月20日
棟番号	1	記入者	〇〇
構造種別	鉄筋コンクリート造	建築年度	昭和44年度(1969年度)
	延床面積	2,562 m ²	階数
			地上 3 階 地下 0 階

部位	仕様 (該当する項目にチェック)	工事履歴(部位の更新)		劣化状況 (複数回答可)	箇所数	特記事項	評価
		年度	工事内容				
1 屋根 屋上	<input type="checkbox"/> アスファルト保護防水	H7	防水改修	<input type="checkbox"/> 降雨時に雨漏りがある	2	EXP.J金物に脱落がある	C
	<input type="checkbox"/> アスファルト露出防水			<input checked="" type="checkbox"/> 天井等に雨漏り痕がある			
	<input checked="" type="checkbox"/> シート防水、塗膜防水			<input type="checkbox"/> 防水層に膨れ・破れ等がある			
	<input type="checkbox"/> 勾配屋根(長尺金属板、折板)			<input type="checkbox"/> 屋根葺材に錆・損傷がある			
	<input type="checkbox"/> 勾配屋根(スレート、瓦類)			<input checked="" type="checkbox"/> 笠木・立上り等に損傷がある			
	<input type="checkbox"/> その他の屋根 ()			<input type="checkbox"/> 樋やルーフトレを目視点検できない			
2 外壁	<input checked="" type="checkbox"/> 塗仕上げ	H3	外壁改修	<input checked="" type="checkbox"/> 鉄筋が見えているところがある	5	北側の劣化	D
	<input checked="" type="checkbox"/> タイル張り、石張り			<input checked="" type="checkbox"/> 外壁から漏水がある			
	<input type="checkbox"/> 金属系パネル	H10	耐震補強	<input checked="" type="checkbox"/> 塗装の剥がれ	多数		
	<input type="checkbox"/> コンクリート系パネル(ALC等)			<input checked="" type="checkbox"/> タイルや石が剥がれている			
	<input type="checkbox"/> その他の外壁 ()			<input type="checkbox"/> 大きな亀裂がある			
	<input checked="" type="checkbox"/> アルミ製サッシ			<input type="checkbox"/> 窓・ドアの廻りで漏水がある			
	<input type="checkbox"/> 鋼製サッシ			<input type="checkbox"/> 窓・ドアに錆・腐食・変形がある			
	<input type="checkbox"/> 断熱サッシ、省エネガラス			<input type="checkbox"/> 外部手すり等の錆・腐朽			
				<input type="checkbox"/> 既存点検等で指摘がある			

部位	改修・点検項目	改修・点検年度	特記事項(改修内容及び点検等による指摘事項)	評価
3 内部仕上 (床・壁・天井) (内部建具) (間仕切等) (照明器具) (エアコン)等	<input checked="" type="checkbox"/> 老朽改修	H5	大規模改造	B
	<input type="checkbox"/> エコ改修			
	<input type="checkbox"/> トイレ改修			
	<input type="checkbox"/> 法令適合			
	<input type="checkbox"/> 校内LAN			
	<input type="checkbox"/> 空調設置			
	<input type="checkbox"/> 障害児等対策			
	<input type="checkbox"/> 防犯対策			
	<input type="checkbox"/> 構造体の耐震対策			
4 電気設備	<input checked="" type="checkbox"/> 分電盤改修	H22		A
	<input type="checkbox"/> 配線等の敷設工事			
	<input checked="" type="checkbox"/> 昇降設備保守点検	H18	指摘無し	
5 機械設備	<input type="checkbox"/> 給水配管改修			C
	<input type="checkbox"/> 排水配管改修			
	<input checked="" type="checkbox"/> 消防設備の点検	H27	指摘への対応済み	
	<input type="checkbox"/> その他、機械設備改修工事			

(6) 長寿命化の実施計画

① 改修等の優先順位付けと実施計画



<ul style="list-style-type: none"> 過去5年間の施設関連経費は平均3.1億円/年であるが、当市においては築40年以上の施設比率が高く多数存在する為、早期に長寿命化改修に着手する必要が有ります。
<ul style="list-style-type: none"> 今後5年間の計画は長寿命化計画40年間の平均8億円/年を基に、長寿命化改修を中心に、部位修繕は緊急性を要する部位(学校)とし、学校の適正配置計画も見据えながら実施します。
<ul style="list-style-type: none"> 長寿命化改修は毎年3校(1校当たり2~3年工期)を目処に計画実施します。
<ul style="list-style-type: none"> 予算配分の考え方として、維持修繕・光熱水費等経費を除く7億円(工事費)の内、これまでの実績から一般財源は半分の3.5億円/年と想定します。 また、財源については、国の補助金や過疎対策事業債等の起債、公共施設等整備基金など、適切かつ効果的に活用し、財政負担を軽減します。

健全度点数、築年数並びに安全性等を考慮しており、今後の整備計画において変わることがあります。

② 長寿命化のコストの見通し、長寿命化の効果～維持・更新の課題と今後の方針～

40年間の計画は、長寿命化による維持・更新コストの総額328億円を極力平準化します。今後はこれまでの投資的経費3.1億円/年と比べ平均約8億円/年と2.6倍となります(最大15億円)。本市における計画では建設時期が比較的集中しているため、平準化の度合いが低いので、長寿命化や改築時期の一部を先送り又は前倒し等も検討の必要があります。

なお、計画の前半約15年は長寿命化改修が集中し、その後の後半約15年は改築が中心の整備となります。

今後の学校施設の維持・更新コストは、前述の通り長寿命化しても過去5年間の投資的経費の約2.6倍に増加すると見込まれます。児童生徒数が減少する中で施設の維持・更新費用が増加するという矛盾を抱えており、①施設保有の在り方、②維持・更新コストの削減、③財源確保は大きな課題となってきます。

個々の学校施設の長寿命化(保全計画)だけでは限界があることから、財政制約ラインとコストのかい離を埋めていくため、財政制約の引き上げ、学校施設の配置や規模、運営面・活用面等に及ぶ多面的な見直しが必要であり、適正化に向けた総合的な取り組み方針を明確にする必要が有ります。

(7) 長寿命化計画の継続的運用方針

① 情報基盤の整備と活用

施設の基本情報、光熱水費をはじめとする運営経費、過去の改修・交換履歴、事故・故障の発生状況等をデータベースに蓄積し一元管理するとともに、12条点検等の法定点検結果等、継続的な点検・調査の結果に基づいて、適切に更新を行っていきます。

② 推進体制等の整備

長寿命化計画を継続的に運用していくため、学校施設の所管課である教育委員会教育総務課を中心に、本計画を含む学校施設のマネジメントを行っていくが、必要に応じて公共施設検討委員会等を立ち上げ全庁的な体制で対応を図っていきます。

また日常の施設管理の質を向上するため、施設管理業務委託による毎月の巡回点検や各種報告書を活用して不具合箇所の早期把握と対応を図っていきます。

1) 日常的な施設管理に対する支援体制

- ・技術職員の兼務・併任による営繕担当部局等との連携
- ・地方公共団体間の広域連携。
- ・退職した技術職員の会計年度任用職員としての採用 ・県からの職員派遣など技術的指導、支援
- ・民間事業者への委託(学校単位or全校包括委託等)
- ・研修などを通じた職員の知見の習得や意識啓発
- ・施設管理マニュアルの整備(技術者向け、学校管理者向け)

2) 計画の進捗管理に対する支援体制

- ・教育委員会と首長部局との全庁横断的な検討体制
- ・財政との連動
- ・人口推計、他の公共施設の整備状況との整合、調整

③ フォローアップ

本計画は学校施設の改修や建て替えの優先順位を設定するものであり、美作市総合計画の中で年次及び個別の事業費を精査していきます。また事業の進捗状況、劣化調査などの結果を反映して本計画は見直しを図るものとします。